



「新年度を迎えて」



新人職員の声

今年度、6名の新しい職員を迎え、23名の職員が林鐘園で働いています。

本園

新年度を迎え、2チームという新体制になりました。子どもたちも新しいチーム・担当者に馴染もうと頑張ってくれています。

4月当初、新しく担当することになった小学生男児が「いつもありがとうございます。これからも“すずらんチーム”をよろしくね」という手紙をくれました。とても温かい気持ちになり、今でも心に残っています。(保育士：井南)

今回は、子どもたちとの日々の生活の中で、職員が「気づいたこと」や「感動したこと」を皆様にお届けします。

今年度より心理療法士として勤務します、山村 崇尚です。児童福祉領域は心理士が務める領域のうち、心理士が最も機能できる領域です。児童支援は親の支援が必須ですから、児童相談所との連携も重要です。初めての分野で多くの困難を伴うと思いますが、できる限り皆様をサポートしたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。(心理療法担当職員 山村 崇尚)

私は林鐘園で調理の仕事をはじめて半年が経ちました。林鐘園では子どもたちが季節毎に伝統行事を体験できていることや、おやつ、パン、お誕生会のケーキ等が愛情込めて手作りで提供されていることに感動しました。子どもたちからの「おいしかったよ」の言葉を聞けるように、日々の食事が子どもたちの活力になることを祈って、心を込めて調理に励んでいきます。(調理員 吉崎 邦子)

すずみ台ホーム

ホームができてから丸5年。近隣の方たちも子どもたちによく声を掛けて下さるようになり、ほのぼのとしたそんな光景が見られることをとても嬉しく感じています。先日、退園した子どもの結婚披露宴に、携わったホーム職員で出席することがあり、その中では色々と話もしてくれ、とても温かい気持ちになる1日でした。

これからも子どもたちと共に、日々喜びや感動が積み重ねられるような関わりをしていきたいと思っています。(保育士：直川)



「金沢城リレーマラソン」に参加（5月12日）

心理士の酒井です。前職は精神科病院のデイケアで3年間働いていました。デイケアに通所される方は高齢の方ばかりで、話題が数十年前のことなどついていくのがやっとでした。ここは年齢が若く、まだ私と年齢は近い方ですが、どのように関わっていけばいいか未知数です。分からないことだらけで皆さんにご迷惑をかけますが、少しでも子どもたちが健やかに暮らせるように尽力したいと思っていますのでよろしくお願いします。(心理療法担当職員 酒井 駿)

林鐘園に勤めて約1ヶ月。毎日が試練の連続ですが、チーム職員の子どものに寄り添った考え方に共感し、私も頑張ろうという気持ちにさせてもらっています。今はまだ子どもたちに必要とされる存在ではありませんが、まずは遊びや生活を通して関わり合い、少しずつ信頼関係を深めていきたいと思っています。そして、子どもたちが少しでも居心地の良い居場所を築いていけるよう、一緒に考え、サポートしていけたらと考えています。(保育士 松田 信絵)



～調理の現場から～



「セレクトメニュー」に願うこと

林鐘園では、毎週火曜日の朝食には、様々な種類の手作りパンやご飯、おかず、スープ、ヨーグルト等を自分で選んで食べることができる「セレクトの日」があります。

この日は、いつもよりも早起きをして、食堂にやってくる子もいます。「これは何パン?」「このサンドウィッチにはなにがはさんであるの?」等、子どもたちが真剣に選んでいる姿も見られます。しっかり朝食を摂って、今日も一日、子どもたちが元気で過ごすことを願って作っています。

(調理員：米田)



教諭でもなく保育士でもない畑違いの私は薬剤師です。子どもが大好きで、幼い頃から保育士になりたかったため、林鐘園の戸を叩きました。子どもたちとの距離は、そう容易く縮まるわけもなく、私からの子どもたちへの思いも中々、繋げられるものではありませんでした。それでも幼児さんには何とか声をかけてもらえるようになり、すごくうれしかったのを覚えています。まだまだ発展途上ではありますが、「おはよう」、「ありがとう」の声かけをがんばりたいと思います。

(非常勤保育士 要 由美)

すずらんチームを担当させていただきます、上原 杏華です。新任職員として林鐘園にお世話になって約1ヶ月が経ちました。子どもたちと過ごす中で沢山の事を学ばせて貰っています。初めてで不安な面も沢山ありますが、子どもの気持ちに寄り添いながら、毎日楽しく過ごしていきたいです。(保育士 上原 杏華)



移転新築経過報告とご支援のお願い

社会福祉法人林鐘園は、昭和22年10月28日が現在地・金沢市東兼六町18番7号での法人成立となっております。爾来本年は72年目、3歳から18歳までの児童延べ400名が巣立っていき、150人の職員がその子どもたちの育ちを支えてまいりました。

その間、時の変化要請等もあり、理事長は6代目、園長は5代目を迎えております。当初より本園は隣寺・永福寺様の寺地をお借りして運営してきておりますが、去る平成26年には従前に取り交わされました土地賃貸契約期間が満了しました。その後、双方新役員の下、協議を重ね、更なるご好意をいただき、再度の契約のもと、現在を迎えております。

しかし、契約更新の折に、永福寺様より将来的には寺地の返還をお願いしたいとの申し出がありました。ご承知の通り、永福寺様は加賀藩八家老・奥村総家支家の菩提寺であります。長い期間、その寺の前に他法人の建物があり、宗教的雰囲気・景観を阻害してきましたことを、誠に申し訳なく存じます。更に思いを巡らす時に、林鐘園は施設運営の財政基盤が未成熟であること、子どもたちが安心して過ごせる日々の生活環境が確保されていないことを痛感するに至りました。

こうした状況を打破するため、本園の移転新築を発願し、度重なる理事会の議決を経て、去る平成29年7月に自己資金にて移転土地を確保し、同年11月より林鐘園ご縁の皆様へ新築ご支援のお願いを致してきたところであります。

来る令和2年は荒崎良徳前理事長の七回忌を迎えることとなり、その報恩ご供養のため、次の新築にむけての事業を展開することと致しました。本日まで、諸般ご支援ご協力賜りました皆様には、今日の決断の後押しをしていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。求めに応じてのご協力に、時を失することなく、予断に囚われないご判断に敬意を表します。尚、これからのご支援のご予定がございましたら、本年9月末日までにごお願いできればと存じます。

これまでのご縁をたよりに、「りんしょうえんたより」を通じて、関係各位にはご支援をお願い致してまいりましたが、時を経ち、世代も変わり、思考変化により、関心も異なってきております。度重なる「おたより」は不快だと思われる方もおありであると聞き及んでいます。大変なる失礼を深くお詫び申し上げます。今後は今日までご支援ご協力いただきました皆様へののみ、現況報告「たより」をお送りすることと致します。関係各位のご健勝をお祈りし、更に林鐘園の新事業展開の無事進行を共に祈願し、ご挨拶と致
合掌

社会福祉法人 林鐘園 理事長 川端 眞美

社会福祉法人 林鐘園 後援会口座

① ゆうちょ銀行 00770-0-4691

② 北陸銀行 賢坂辻支店 普通預金 4056140

編集後記

ー「人は人間的付き合いのない人には攻撃的になる」ー

これは園内で取り組みを始めて3年目となる「接遇研修」の中で引用されたアメリカの心理学者・ロバート・ザイアンスによる熟知性の法則です。こうした習性を持つ私たちが人と関わっていく中で、できるだけ多く相手との共通部分を見出していくのが大切であることは言うまでもありません。上から目線で相手に自分の考えを押しつけるのではなく、同じ目線、あるいは相手よりも低い目線で、相手の言葉に耳を傾け、少しでも多くの人と安心感を覚える人間関係を築いていきたいものです。(書記 川端)

りんしょうえんたより

第4号



「こどもの日」にみんなで“おもちつき”

(5月5日)

「新しい時代に希望をもって」

「平成」が終わり、新しい時代「令和」を迎えようとしています。識者たちが平成の時代に様々な評価をしています。例えば、阪神淡路大震災をはじめ、東日本大震災等の災害の多い時代であったと言われますが、どの時代でも災害はありました。むしろ、明治以来、唯一戦争を起さなかった平和な時代であったとの評価は誇れるのではないのでしょうか。災害や戦争を思うと、平穏な日々が毎日訪れることの幸せを感じずにはおれません。

この平和な時代にあっても、家庭で暮らすことが出来ない子どもたちが児童養護施設に入所しなければならない現実には向き合い、微力ではありますが、子どもたちの成長の手助けになればと活動しています。子どもたちだけでなく、お世話をさせていただく若い職員たちの成長にも期待するところです。

「縁の下の力持ちになる事を厭ふな 人の為によかれと願ふ心を常に持てよ」—明治時代に郵便制度を始めただけでなく、国の発展に大きく貢献した前島密翁の有名な言葉です。私たち理事・職員はただただ子どもたちの幸せのため活動させていただいております。子どもたちがより良い環境で生活が出来るよう、新たな場所へ移転の準備をしています。引き続き、ご寄付を始めとするご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。
社会福祉法人 林鐘園 理事 山本 利郎

新年度が始まり園内の子どもたちも新生活にも慣れソフトボール部や射撃部で頑張る子、野球・バスケ・サッカーなど新しく習い事にチャレンジする子もおり良いスタートが切れたと思っています。

この子どもたちが安心して生活を送るために、今年度末までに各都道府県から「社会的養育推進計画」が出されることとなり、子どもたちの最善の利益を盛り込んだ計画になるよう県養協では働きかけています。この計画に沿う形で林鐘園として出来ることを移転・新築計画の中に具体的に考えていきたいと思っています。今後ともご支援のほど宜しくお願い致します。(園長 北村幸子)